コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	アスファルト	6 pt	4 位	0 sp
		星降る夜のきれいな光景からアスファルトのぬくもりへ。そして、キメのフレーズ。 すうっと気持ちの中に入ってくる、とてもここちよい王国の滑り出しでした。 都会に住んでると、道に寝ころぶなんてトンデモナイ！という感覚が先に立つのですが、そうじゃないんだよ、とちょっぴり田舎の風も吹いて、ぬくもりの、やさしさの、「あの道は君」でした。		
02	道	12 pt	3 位	0 sp
		立ち止まった人は、後ろへ、後ろへ――という１行が強いインパクト。 人生を道にたとえるのは、わりとよくある発想ですが、それをうんと突き詰めて、具体的な光景として見せつつ、しっかりその上に情感を乗せたところがすばらしかったです。 イチオシフレーズ：「三年B組金八先生」		
03	どなどな	17 pt	1 位	0 sp
		そんなヒドい神様！ ふーむこれは、中途半端なホトケゴコロ、もといカミサマゴコロなんぞないのと同じ、という無神論者の主張なのでしょうか。 神さま神さま、ミノタウロスの神様、王国初のセッションの首位がこの作品というのは、王国の未来がラビリントスだという啓示なのでしょうか。ま、楽しければそれでもいいけど。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「ある晴れた昼下がり」		
04	雑記	4 pt	5 位	0 sp
		リクツっぽい話をノリではなく、敢えてリクツで押していった潔さがマル。 多数派＝いじめ論の段落だけ論旨から浮いているように思えたのですが、でもそこがホントは主張したかった部分なのかも。 イチオシフレーズ：「はじめまして。」×３		
05	HOW　TO　GO	14 pt	2 位	0 sp
		いや十九歳はまだまだ無限の可能性ですって、お酒だって飲めないくせに、という当然のツッコミは措くとして。 友人との邂逅によって思い出してしまったいらだちのなかみ、とてもよく伝わってきます。でも伝えたい焦燥感はかなりシンプルなものなので、もっとエピソードを削ってコンパクトにしたほうが、より強く読者に伝わると思います。 ついでに「僕は」「彼は」といちいち律儀に主語を明示するクセも直して、文脈で分からせるように工夫すると、もっと流れがよくなると愚考いたしますです。 イチオシフレーズ：「灰色のダイエット・コカコーラ」×２　←意味不明だから教えて、だそうです。「夢だから……そう、夢だったさ。」　「十九年目の秋が訪れる」 で、イチオシフレーズ大賞ゲットです。銀メダルともども、おめでとう!!		
06	道（どう）	3 pt	7 位	0 sp
		野球VSベースボール。身近な話題から入ったところは親しみやすいのですが、すでにいろんな人が論じてる話ですよね。そのおさらいにとどまった感。 それと最終段落、「一対一の戦いがあったから野球が日本に根付いた」という話は、本論の「集団戦」(バントとか）基調と齟齬して、こういう論理物としては論点がぼけた気がしました。		
07	一つの愛の歌	4 pt	5 位	0 sp
		歌うっていうのがなあ。。。ハーモニカくらいじゃダメだったでしょうか、ことのはひぃちゃん（←作者名）。公園で朗々と歌を歌うって、ちょっと変人の香り、しません？ そこだけ不自然で、あとはピアスの跡のような表面にあらわれた徴候から、ちょっとムリしつつがんばって乗り越えてゆく彼女の人柄、人生へとつなげてゆくつくり、とても自然で好感が持てました。		